

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870800899		
法人名	力開発株式会社		
事業所名	グループホーム舞子		
所在地	神戸市垂水区舞子坂3丁目14番21号		
自己評価作成日	令和4年 5月 6日	評価結果市町村受理日	令和4年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菘乃町2-2-14
訪問調査日	令和4年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節に合わせた手作り料理やリクエストメニューを提供している。
・事業所独自のLINEを開設し、タブレットを用いてオンライン面会や入居者様の様子を動画や写真を送ったり送ったり ご家族に合わせた情報発信をしている。
・各医療機関との連携を密にし、入居者様の状態の変化に速やかにかつ適切に対応している。
・介護技術の向上のため、職員が各種研修に参加や、資格取得を行ない、自己研鑽している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

① 本人本位の日常支援 ・・・「入居者一人ひとりが望む生活」を過ごしていただくため、日ごろから本人の意向をくみ取ることが心掛けている。何気ない日常会話の中からも、思いの表出を把握し職員間で共有するように努めている。
② 食の楽しみを演出する工夫 ・・・誕生会やイベント食として、ちらし寿司、てんぷら、稲荷ずし等を職員と会話を楽しみながら作り、「食」への楽しみ・意欲の向上に努めている。
③ 医療連携体制 ・・・協力医による訪問診療や急変時対応(24Hオンコール体制)が整備されている。希望者は歯科・皮膚科・泌尿器科の訪問診療も導入されている。
④ 家族との連携 ・・・常に家族等とは密な連絡がとれており、安心につながっている。海外にお住いの家族さんとは、インターネットを活用し連絡を取っており、ご本人ともZOOMで面談ができるように支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心生活 健康サポート 生きがいのある毎日」をモットーに その人らしく居心地のよい場でありたいと 全職員共有し、実践している。	事業所の基本理念である「安心生活」「健康サポート」「生きがいのある毎日」を実現するため、新人研修や毎日のミーティング等で基本理念の確認と共有を図り、業務に反映できるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	世界的なコロナ禍の中、オンラインで年1～2回グループホーム連絡会 区では他職種の方々との情報交換する場をもっている	コロナ禍の中で、地域との付き合いや(自治会・近隣等)や地域行事への参加およびホーム行事への参加は中止の状況が続いている。辛うじて散歩を兼ねて、近隣の商店への買い物は続けている。	コロナ禍が落ち着きました折には、地域の方々の協力をいただきながら、地域の社会資源の一つとして、事業所発信の積極的な活動を再開していられることに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今の状況ではできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険担当からの指導により運営推進会議は社内で行っている。フロア長会議の延長になりがちではあるが、現状に踏み込んだ報告と意見の交換をし、サービス向上に活かしている	運営推進会議は、医師、ケアマネ、民生・児童委員、自治会、家族、職員等で運営されている。コロナ禍である現在は、社内だけで行っているが、多岐にわたって活発な意見交換を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今の状況ではできていない	市・区の担当者とは日頃より、入居者の手続・相談等で連携をとっている。地域包括支援センターとは、困難事例を含み、利用者の権利擁護等の相談が発生した折に相談させていただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の身体拘束の研修を実施し、毎回レポート提出により考える機会を持ちケアに反映している また隔月に身体拘束委員会を実施しており、こういう場合はどうだろうと協議を重ねている	職員は年2回の研修・勉強会や隔月実施の身体拘束委員会を通じて「身体的拘束等の弊害」について理解を深めている。見守りと言葉かけにより、本人が望む暮らしを支援している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の高齢者虐待の研修を 既定のDVDで行ったり、当GH独自で事例を作成し、身近な事として見つめ直し、皆で話し合い 防止に努めている	年2回の虐待防止の研修会やDVD等で当施設独自の事例を作成し検討会を実施している。それにより、不適切なケアの背景を共有し、その払拭に取り組んでいる。また、職員の「孤立化」防止のため開かれたホームになるよう心掛けている。	

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・リーダー職員は理解しているが、一般職員は習熟が浅い	現在、後見人制度をはじめ権利擁護に関する諸制度を活用されている方はおられない。職員間では、制度の重要性は研修等を通じて十分理解している。状況に応じて、家族等に情報を提供している。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者・リーダー職員・事務職員と面談し納得されるよう説明し理解して頂くように努めている	入居後に不具合が生じないよう事業所見学や日中体験を通して疑問点・不安感ができるだけ生じないように心掛けている。また、契約時には重度化した時や終末期の対応も含めて丁寧に説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話・LINE・その他来設されて要望を聴き取っている 近日ではコロナ禍で面会を中止していたが「会いたい」というご意見が重なったため、状況を見つつ、応接室で面会していただく形をとった	コロナ禍であるが、電話・ライン・メール・来訪時等できる限り、機会を設けて家族等の意見・要望の聞き取りを実施している。いただいた意見等は必ずフィードバックして運営に生かす努力をしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のフロア長会に於いてミーティングで出た意見や提案を管理者に伝え反映されている 近日では車や単車の駐車を要望し設置された	年一回、自己評価の機会を通じて上長との面談を実施し職員の意見をくみ上げている。業務面での見直し改善等は月例会議の機会を利用して(職員会議・フロア会議等)で取り組んでいる。	タイムリーに業務(ケア)の質を検証し、その質を向上させていく取組を、今後も継続願います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月のシフトは個人の働き方の要望を聴き取り反映している 給与関係に関しては個々に面談しやりがいに繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ステップアップのための研修を受ける者にはシフトを調整し支援している また具体的なケアの方法は統一に力量を上げるためミーティングの機会にデモをして共有している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインでの交流で情報交換しサービスの向上を図っている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にもしっかり聴き取りした上で、入居後1ヶ月は全職員がよく観察し本人からの要望を聴き取りストレスなく暮らせるよう努めている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する前は、特にご家族とこまめに連絡を取り丁寧に説明し、要望・暮らしぶりを聞き出すようにして信頼関係を作るようにしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に行っていたこと、家族が心掛けていたことなど聴き取り、個々のサービスに繋げている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務のみに流されることなく入居者との会話やふれ合いに重きを置く介護に心掛けている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子を家族に伝え、安心していただくとともに、必要なものをお願いして持って来て頂いたりオンラインで会って頂いたり 共に支えていく関係を築いている		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時節柄、外出や他からの訪問も行っていない。徐々に花見などから外出支援し「父が亡くなったのは桜が咲く季節やった」と桜を見つづ懐かしむ声が聞かれた。また年賀状を書いて送り、交流を持っている入居者もある	コロナ禍で従来通りの活動は難しいが、ワクチン接種・マスク着用・体温検査等の制限の中ではあるが、家族との面会・外出の機会を増やす支援を検討している。基本的には、市からの感染予防に関する通知に従っている。	コロナ禍の中、制限も多くありますが、ご家族の理解・協力をいただきながら工夫を継続され、今後も入居者個々人のご家族等との大切な時間の確保の継続支援を願います。
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話の成立する入居者同士を同じテーブルにする また一緒にいるとやすらぐ間柄など考慮し座席を決め、会話しつつ家事(トレイ拭き・洗濯物たたみ)を楽しんで参加できるよう努めている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況	実践状況	
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	近日では数カ月前に体調増悪にて退去・入院となられた方が亡くなったと連絡いただき、個人的に参列した「次は自分の母がいるのでお世話になりたい」の声を頂けた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	牛乳は今まで飲んだことないお腹壊すから 朝はゆっくり寝たい 下着はあくまで布パンツ 昼寝はしたくない などなどその人なりのこだわりを理解し、体調に差支えがない範囲で支援している 入居者の声に耳を傾け思いや意向をくみ取るよう努めている	入居時に本人・家族より、本人の生活歴を出来るだけ入手する努力をしている。また、入居後は本人との会話・仕草・表情等より、意向を把握するよう心掛けている。知り得た情報は連絡ノート等で全員で共有するよう努めている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前は八百屋を経営し台所をしていた 掃除には格別思い入れがあり徹底している 本人がほうきで掃除することで安心に繋がるならと危険のないよう見守り支援している		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事を手伝うことで生き生きと過ごせる人など残存機能の維持、把握のため自分でできることは無理のない範囲でして頂くよう見守り声掛けしそれぞれ現状に即した支援に努めている		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	糖尿病の疾患がある入居者 健康管理を家族が願っている 数値の測定・食事の配慮 運動の支援 その他 カテーテル装着者など 個人に即した支援をしている	本人の思いや意向・要望をプランのニーズに置き、医療専門職・職員・家族等の意見を加味して介護計画を作成している。モニタリング・ケアカンファレンスを通してプランの見直し等へつなげている。	今後も「本人本位」の視点を介護計画の基軸とし、「思い・ニーズ」の把握に努められ、本人を含めチームでの「本人ニーズの達成」を目指すことに期待をします。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	関わった職員が介護記録に気づきや発した言葉など記載している 以後の介護計画に活かしている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の中、まだ外出支援が実施できていないのが現状であるが 元気な方には施設内の階下の庭へ出てベンチに座り気分転換をはかっている また家族と電話で話をしたり 個々に合わせて対応している		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況	実践状況	
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今は世間の状況上 地域資源を活用することが出来ていない 過日 花見に2年ぶりに外出し公園で憩うことができた		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の往診により細かく相談し、家族へ報告 健康な日常が続けられるよう支援している	月2回の協力医による訪問診療、また、急変時の24Hオンコール体制により健康管理を実施している。希望者は、歯科・泌尿器科・眼科等の訪問診療を受けておられる。外来受診に関してはご家族と協働している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	おむつ交換時や入浴の際に発見した変化や 血糖値の測定 血圧の変化 傷はないか 腹部の張り具合を看てもらったり 便秘薬の相談 摘便処置など 実施している		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提出。入院中も電話にて経過を聞いて把握するようにしている。退院時には今後 暮らす上での注意点など情報を得ている	入院時には、医療機関担当者との相談を密にするように努めている(介護サマリーの提出を含め、早期退院を目標に入院中も経過の把握に努めている)。また、退院後の生活を安全・安心に過ごすための情報の把握を心がけている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と管理者・介護者と共に今の状況・今後の方針を家族の希望を軸に本人のより良い支援に取り組んでいる	重度化・終末期への対応は、入居時に説明し理解を得ている。入居中にそのような状況が訪れたときは、本人にとって望ましいケアとなるように本人、家族、医療専門職、ホーム等で相談・検討しながらチームで取り組んでいる。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変には全ての職員は 喉つめの場合は吐き出す処置 怪我の場合は状態により処置 場合によっては看護師の要請、増悪時には救急の要請と あらゆる事態に応じて対応できるよう認識の確認をしている		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今は地域との協力などは困難であるが、年2回防災避難訓練を実施し速やかに行動できるよう実践している	年2回防災避難訓練(防火訓練)を実施している。地域の避難場所等の把握は行っており、食料・水等の備蓄は、3日間程度している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
				実践状況	実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	女性入居者のトイレ介助は 男性職員では躊躇する人には女性職員が対応 入浴時には恥ずかしい気持ちを尊重し、対応している	入居者一人ひとりの自尊心・プライドに十分配慮しながら、今まで培ってこられた趣味や習慣等をご自身の望むタイミング・内容で継続できるよう支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	朝の衣服 どれが着たいか おやつはプリンとゼリーと出しどちらがいいか どちらを食べたいか 考えていただき決定する機会をもっている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく入居者のペースに合わせ寄り添う介護を務めている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節が変わっても薄手のダウンジャケットが放せない 着なくても椅子の背に掛けている 理解し見守っているが その日着ればよいものを朝見るところに準備しておいたりしている また本人の希望を聞きご家族に代わって購入することもある			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もうすぐ食事の時間が近くなると進んでパーティーを出してくれたり、終わると片付け、食後のトレー拭きと 生き生き生活に参加している 充実となるよう見守り支援している	誕生会や行事時での食事(食レク・行事食)には、皆さんからのリクエストの多い、「ちらし寿司、稲荷寿司、天ぷら等」を協働で調理している。職員との会話も楽しみながら、ご自身ができることで参加していただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分量はチェック表に記載し全ての職員が一人ひとりの状態を把握できるようにしている 水分を摂るのが苦手な方には湯呑を小ぶりの陶器にしたり日中に少なければ就寝前に温茶を提供したりしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがいが出来る人 できにくい人には水を含んで残渣を流す はぶらしなど その人に合った方法で義歯などの清掃 口腔ケアを行っている			

自己	者 第	項 目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	車椅子使用で立位の取れない入居者でも 日中はなるべくトイレで排泄できるよう職員2人介助で行っている	入居者個々人の現況及び排泄パターンとその兆候を共有し、一人ひとりに適合した排泄が行えるよう支援している。夜間帯などは、身体状況に合わせてポータブルトイレ等も使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便が毎日ない習慣の人もある すぐ薬とせず、野菜を摂る・牛乳を摂る お腹のマッサージ 補講 運動昇降運動などを支援し便秘の解消に努めている		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけしても気が乗らない方には少し時間を空けて再び声かけする あるいは翌日に無理強いないで気持ち乗るまで待っている	体調を考慮した上で、個々人の希望に合わせた入浴を支援している。ゆったりとした入浴となるよう配慮している。職員との会話も楽しんでおられる。また、お身体に湿疹や打撲痕等がないかもしっかりと確認している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	脚のむくみ 椅子でうとうと傾眠されている方など 体の負担を考え居室で休めるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや錠剤を落とすなどないよう飲み込むまで見守り支援している また本人の体調をよく観察し担当医に相談 薬の変更や量の加減などに繋がることもある		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯物たたみ・トレイ拭き・掃除)をすることを楽しみとしている人には提供し、脳トレを楽しみとしている人、窓の外の人の動きを見るのが楽しみな人もおられる それぞれに合った支援をしている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今は状況的に実施が無理であるが、外出支援ができる時が来れば積極的にいきたい 家族も一緒に食事に出かけられるのを楽しみに待たれている	コロナ禍で、外出等は難しい状況が続いている。そうした中でも感染対策に万全を期し、応接室での家族面会をいち早く再開している。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当事業所では本人が常にお金を直接管理することはしていないが 施設のほうで預かり外出の際は持ち、好みの菓子など購入できる		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年末にはハガキを用意し、親しい人や家族に年賀状を書いたりできるよう支援している スカイプや電話は家族の都合を聞いておき、話ができるようにしている		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の壁には季節に合った絵を掲示、トイレには分かるように「トイレ」とイラスト入りで掲示 便座は暖かくし 居心地の良い空間作りをしている	季節に応じた空調管理を施し、フロアの壁面には入居者作成の絵画等を飾ってある。広い窓からの適度な採光が入るリビングでは個々人が、憩いの時間を過ごせる共有空間となっている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人用・2人用・3人用のリクライニングの椅子やソファを設置し、食席でなく気分を変えて思い思いに座れるようにしている 窓外を見るのを楽しみにしている人に窓側にはスペースを空けるなど工夫している		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には愛着のあるタンスや備品を置き、家族の写真や送られてきた年賀状や手紙などを飾っている	使い慣れた馴染みのもの(筆筒・テレビ・ソファ等)を自由に持ち込み自分だけの空間作りを支援している。ADLの変化に対応するために転倒時のダメージ軽減を考慮したクッションの使用等の配慮をしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	可能な限り手すりを設置 起床時に転倒の危険のある人の居室の床にはクッションマットを敷くなど安心安全に自立で暮らせるよう配慮している		